

# 椎葉村天包地区 事業概要

令和8年3月16日  
東臼杵農林振興局



写真1 (天包地区と不土野小学校との位置関係)

## 崩壊地対策について



- ・崩壊が拡大したのは平成17年の台風14号による大雨 (崩壊の始まりは昭和35年頃)
- ・面積は約7ha

写真2 (山腹崩壊地拡大)

※令和6年度調査の結果、山腹崩壊地の尾根向こう側の国有林から地下水が流入していることが判明したため、令和7年度に国有林内で詳細な地質調査・地下水調査などを行っている。

※山腹崩壊地の復旧工事（緑化工）は、令和8年度から着手する予定。

## 地すべり対策について

- 令和6年度にスーパーウェルポイント工法を実施し、地すべりの原因である地下水を強制的に排除している。現在も継続して排除中である。



(写真2 スーパーウェルポイント工法)

- 地すべりの原因である地下水の排除を行うため、今後、計画的に地すべり地内に直径3.5mの集水井工を設置する予定。



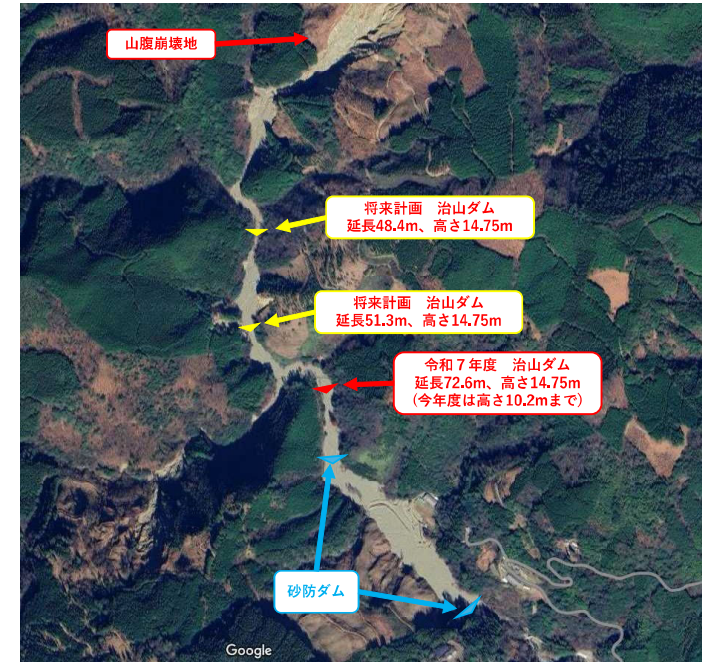
(図1 集水井イメージ)



(写真3 集水井工完成イメージ)

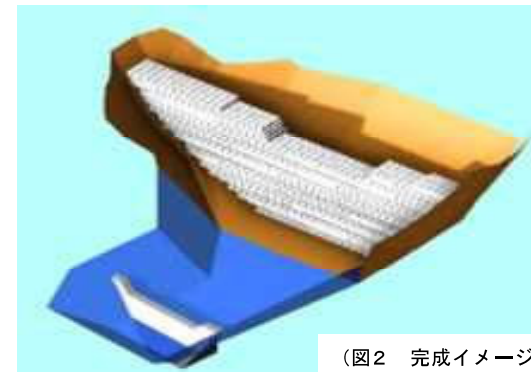
## 溪流対策について

- 山腹崩壊地から流出した土砂が溪流内に堆積しているため、ブロック積による谷止工を3基計画し、そのうち1基(赤色の部分)が現在施工中である。



(写真4 溪流対策計画位置図)

- ブロックについては、上椎葉にある広場をメインに製作しており、県道142号上椎葉湯前線を使用し運搬を行う。
- 令和8年2月までに1,580個のブロックを現場へ運搬済み。



(図2 完成イメージ)

- 今後、2,000個程度のブロックを製作し、令和9年3月までにNo.1谷止工を完成させる予定。
- 豊水期(6月~10月)は溪流内の工事を中断し、渇水期(11月以降)に再開する。
- No.1谷止工完成後、上流側に計画の谷止工に着手する。

工事完成までに長期間を要しますが、今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。